

令和3年度

学生によるオレンジリボン運動

聖泉大学 実施報告書



実施主体 聖泉大学 別科助産専攻 7期生

実施内容 2021年4月末～5月:オレンジリボン運動の企画・準備

2021年6月～8月: 広報、動画視聴、アンケート調査

2021年7月～9月:アンケート集計、まとめ

①事前に取り組んだ内容

私たちは、入学前に友田明美著書の「子どもの脳を傷つける親たち」を読み、児童虐待が子どものあらゆる面に影響を及ぼすことを知りました。また、講義で児童虐待の現状やオレンジリボン運動について学びました。これらの学びを踏まえ、私たちもオレンジリボン運動を行いたいと思い、企画書を作成し活動を開始しました。

近年では少子化が進み、自分たちも含めて子どもとの接触機会は減少しており、子育てでのイメージはつきにくくなっている現状があります。これらのことから、今から子どもとの望ましい関わりの知識（子育てにおける体罰の問題について）を普及し、次世代の虐待防止に繋がりたいと考えました。そのため、対象を大学生とし、この運動を通して、近い将来に親となる可能性のある（自分たちと同世代である）大学生へ向け、子育てや体罰の問題を考えてもらい、児童虐待を予防していきたいと思いました。聖泉大学全学部生の506名、ならびに滋賀県・びわ湖東北部連携大学である4つの大学の学生（滋賀大学、滋賀県立大学、長浜バイオ大学、滋賀文教短期大学）に向け、10分程度の動画「虐待のない未来を目指して」を作成することにしました。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

企画書における活動目的は、①大学生が子どもの虐待や体罰の現状を知ることができる、②次世代の子どもたちの親となる大学生が体罰の問題を考える機会をつくる、としました。目標としては、①オレンジリボン運動について理解してもらう、②児童虐待や体罰の現状を理解してもらう、③体罰にあたる行為を知ってもらう、④虐待予防として自分にできることを考えてもらう、を挙げました。そのうえで、オレンジリボン運動や児童虐待・体罰についての動画を作成しました。動画の内容は、①オレンジリボン運動とはどのような活動か、②児童虐待・体罰の現状、③児童福祉法の改正・施行について、④しつけと体罰の違い、⑤体罰が子どもにもたらす影響、⑥アンガーマネジメントなどです。動画は10分以内で、寸劇・クイズを入れるなど工夫し、集中して視聴できることを目指しました。動画案内のQRコードを掲載したチラシやチラシを入れるオレンジリボン啓発のクリアファイルを作成しました。

学内では、より確実に視聴してもらうために、各学部の授業担当教員に事前許可をもらい、授業前後の時間に動画を視聴してもらいました。視聴後は配付した葉っぱに未来の子どもたちへのメッセージとアンケートの記入に協力していただきました。回収した葉っぱは、大学の許可を得て、ラウンジに掲示したオレンジリボンツリーの幹に貼り付け、豊かに茂ったオレンジツリーを完成させることができました。

コロナ禍であるため、びわ湖東北部地区連携大学に対しては、チラシを郵送・配布し、動画を視聴していただきました。

さらに、より多くの方にも視聴していただきたく、①大学のホームページに掲載、②

FM ひこねのラジオ放送に出演し活動や動画の紹介、③オープンキャンパスに来場者へ案内、④彦根市の広報紙「広報ひこね」への掲載・取材対応、⑤修了生や実習施設に紹介、を行いました。最後には動画視聴後のアンケートを集計し、活動の評価をまとめました。

3 オレンジリボン運動を終えて…

わたしたちはこの活動を通じて、子どもの虐待や体罰について改めて学ぶことができました。

学内アンケート集計では、214名の学生および教職員に回答をいただきました。「児童虐待の現状に驚いた」や「少し叩くだけや軽い暴力でも、体罰になるとわかった」などの意見が多くみられ、子どもの虐待の現状や体罰の問題について、理解を促すことができたのではないかと思います。また、「体罰としつけの違いが理解できた」、「しつけと違っていても体罰に当たる可能性があるということがわかった」や「痛みが理解を生むと考えていたが、そうではないと知って驚いた」という意見も見られました。

動画を通じて、視聴してくださった方々は、これから子どもに接する際の参考になったのではないかと思います。児童虐待や体罰と聞くと自分には関係がないと思う方もいると思いますが、身近に感じていただきたいです。社会人、そして親という立場になったとき、自分たちの関わりのあり方が次世代に負の遺産とならないためにどうあるべきか、考える機会になったのであれば嬉しいです。

動画を視聴される方に、どのように伝えたらいいかが難しかったですが、動画のパワーポイントや寸劇・クイズなどがわかりやすかったという意見を多くいただきました。また、子どもたちへのメッセージ葉っぱが増え、ツリーが大きく茂っていく様子は、とても嬉しかったです。葉っぱのメッセージやアンケートをみて児童虐待や体罰についての意識が変わったのかなと実感することができました。

今後助産師として、児童虐待を防止するためにできることを常に考え、オレンジリボン運動を広めていきたいです。



<メッセージで豊かに茂ったオレンジリボンツリー>



<動画作成>



<動画表紙>



<クリアファイル>

<広報チラシ：動画 QR コード掲載>



<動画視聴の様子>



視聴用 QR コード